令和７年　２月１６日
札幌市立新発寒小学校

令和７年度　自己評価書

１　本年度の重点目標　【よさへの気付きと実感　～一人一人が輝く教育活動の実践～　】

２　取組のポイント　①だれ一人取り残さない特別支援教育の充実
②主体的な学びの実現へ向けた授業改善
③自他を大切にする人間尊重の心の育成
④健康・体力の増進
⑤家庭・地域・関係機関との連携

３　自己評価達成状況
４：たいへんよい状況である　３：よい状況である　２：改善を要するところがある　１：かなり改善を要する
（平均値が３以上をA,　２～３をB,　１以下をC　としています。）

	評価項目	本校職員による自己評価			学校関係者評価４段階評価	
		達成状況		成果や課題 改善の方向 など	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
①	**特別支援教育**					
1	個々の児童の特性に応じた指導・支援を心掛け、「誰一人として取り残さない」教育活動の推進に向けて取り組むことができた。	3.44／4	A	子どもの学習や生活の様子に応じて、適宜ケース会議を開き、よりよい支援についての協議を行い日常の指導につなげてきました。困りを抱えた児童の保護者との面談機会を増やし、家庭や関係機関との連携も充実させるように努めています。	A	A
②	**学ぶ力の育成**					
2	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、研修・研究を深化させ授業改善に努めることができた。	3.48／4	A	「もっとやってみたい」という子どもの思いを大切にした授業改善を行ってきました。出前授業や校外学習なども積極的に実施し、本物の体験を大切にした学習にも力を入れています。	A	A
3	ＩＣＴや外部人材を積極的に活用し、体験的に学ぶことができる機会の創出に努めることができた。	3.50／4	A		A	A
③	**自治的な活動**					
4	児童会活動を初めとして、さまざまな教育活動を通じて子どもたちの主体性を育むような自治的な活動を推進できた。	3.52／4	A	児童委員会の取組を全校朝会で発信し、より子どもたちが主体的に取り組めるようにも工夫してきました。子ども同士の相互評価の機会を多く取り入れ、より一層、自己肯定感を高められるような活動を行っていきます。	A	A
5	子どもたちが互いを認め合う取組を充実させ、達成感を感じたり自分に自信をもったりできるよう努めることができた。	3.37／4	A		A	A
④	**豊かな心**					
6	道徳の授業を中心とした道徳教育の推進と、子どもの実態に合わせた命を大切にする指導を行うことができた。	3.38／4	A	「おはようタイム」や各行事での異学年交流をはじめ、「しんはつっ子を知ろう」では、他学級の学習の様子を子どもたちが参観する活動も行いました。今後も、多くの人との関わりを通して命を大切にしようとする心情を育てるよう努めていきます。	A	A
7	相手意識をもった生活を送れるよう、年間を通じて、異学年交流を計画・推進できた。	3.46／4	A		A	A
⑤	**健やかな体**					
8	体育の学習や体力テストの取組を通じて、子どもたちの運動や健康への意識向上を図ることができた。	3.44／4	A	性指導と食育の充実を図るため、養護教諭や栄養教諭による学習を、学年の発達段階に合わせて行いました。また休み時間には、職員が子どもの遊びに積極的に関わり、一緒になって体を動かして運動の楽しさや面白さを感じられるよう努めています。	A	A
9	体育の時間以外にも休み時間などを活用し、子どもたちが体を動かす時間や運動機会の創出に努めることができた。	3.52／4	A		A	A
10	子どもたちの発達段階や実態に応じた、性指導や食育を推進することができた。	3.67／4	A		A	A

→次ページに続きます

評価項目		本校職員による自己評価			自己評価の適切さ	改善策の適切さ
		達成状況		成果や課題 改善の方向 など		
⑥ いじめの防止						
11	いじめや児童間のトラブルについて、定期的に情報共有や対応検討、研修などを行い、いじめの未然防止に努めることができた。	3.63／4	A	いじめが疑われる事案が発生した場合には、いじめ防止対策委員会や適宜ケース会議なども開いて対応を協議しています。また、より正しい実態の把握と情報共有のため、複数職員による関係児童への聞取りや指導、家庭との連携を行っています。 今後は、いじめ防止に向けた啓発活動にも力を入れ未然防止の取組を強化していきます。	A	A
12	いじめや児童間のトラブルの実態把握に努め、被害児童はもちろん加害児童に対してもその心情や背景に寄り添った指導を行うことができた。	3.56／4	A		A	A
⑦ 信頼される学校の創造						
13	子どもたちが落ち着いて、安心・安全に学習に向かえるように、日常的に学習環境を整えることができた。	3.48／4	A	年５回の参観懇談や「しんはつ発表参観日」など、学習の様子を見ていただく機会を設けているほか、各種お便りや学校ホームページ、「すぐーる」アプリを通して情報発信を行ってきました。引き続き、家庭や地域との連携を密にしながら、信頼される学校を目指します。	A	A
14	情報発信やこまめな連絡を行いながら家庭や地域、外部機関と連携し、信頼される学校づくりに努めることができた。	3.48／4	A		A	A
⑧ 幼保小中一貫教育						
15	グランドデザインを基盤とし、パートナー校とのより一層の連携を強化しながら、小中で一貫した教育を目指した取組を推進することができた。	3.59／4	A	中学校とは、児童の中学校見学や職員の情報交流会を実施し連携強化に努めてきました。また、新たな取組として、校区の保育園との交流（合同避難訓練、学校・保育園見学など）を行うことで、より一層の連携強化を推進してきました。	A	A
16	小学校入学時のスムーズな接続を目指し、園との交流や連携を推進し「架け橋期」の教育の充実を図ることができた。	3.67／4	A		A	A
⑨ 「チーム新発寒」						
17	学年集団を基盤とし、全職員が担任である意識をもちながら、「チームしんはつ」として学校組織全体で教育活動を推進することができた。	3.52／4	A	学年合同授業や他の学級の授業を参観する活動を通して、担任をしている児童以外の子どもたちへ目を向けるよう取り組んできました。今後は、全職員が日常的に子どもたちへ声を掛け、見守っていくことで、より一層「学校全体で」という意識を高められるよう努めていきます。	A	A

学校関係者評価委員の皆様からの御意見	◆新発寒小の子どもたちは、素直で元気な子どもたちです。注意をするとあやまること、挨拶もできる子たちです。挨拶は、人間関係の基本だと考えているので、今後も人間尊重の心の育成に力を注いでいただきたいと思います。 ◆子どもたち自身が周りの状況を察知し積極的に動く姿を目にします。自分の都合だけでなく周りの都合も考えた言動ができるており、学校の取組が子どもたちに浸透しているからこその姿だと思います。 ◆子どもたちの自主性や主体性を育てる方針を感じています。幼保小の取組は、子どもが安心して入学することにつながり、継続、発展させていけるとよいと思います。 ◆職員一人一人が、子どもに向き合っている「よさ」をさらに継続させてほしいです。